



全国1,000店舗突破『業務スーパー』を展開する企業の ゼロトラストセキュリティへの取り組みとは

**神戸物産**
KOBE BUSSAN CO., LTD.

株式会社神戸物産様(以下、神戸物産)は「オリジナリティ溢れる商品力」「独自のローコスト販売システム」「食の製販一体体制の確立」をベースにして、北海道から沖縄まで全国に1,072店舗(2024年6月末現在)の「業務スーパー」をフランチャイズチェーン(FC)方式で展開しています。中核の業務スーパー事業に加えて、外食・中食事業、エコ再生エネルギー事業なども手掛けています。

Webサイト:<https://www.kobebussan.co.jp/>

「ゼロトラスト」に対応したセキュリティを構築する

神戸物産が兵庫県三木市で「業務スーパー」1号店を開店したのは、2000年のことでした。2024年6月現在、加盟店は1,072店舗(うち直営は4店舗)まで増加し、誰もが知る小売店のひとつになっています。

外食・中食事業やエコ再生エネルギー事業なども展開していますが、業務スーパーのFC本部及び業務スーパーで販売する商品の輸入・卸売りをコア事業とする神戸物産では、いち早くIT化を進めてきたと、同社のITへの取り組みを説明するのは同社システム部システム開発の課長、足立様です。

足立様 「当社は、業務スーパーで取り扱う商品の製造・販売や海外からの輸入など、業務スーパー専門の商社としても良いかもしれません。取り扱うアイテムが多いので、業務スーパーではいち早くEDI(電子データ交換)を導入しました。旧態依然のファックスを使った受発注では、FC加盟店の急速な拡大に対応できなかったのでは、と思っています」

ITを活用するもう一つの理由が、ローコスト運用の実現です。

足立様 「様々なシステムを導入し、ローコストで運用することはFC加盟店の利益を増やし、販売管理費の圧縮につながります。常に様々な業務のシステム化やオペレーションの簡素化を進めてきました」

先進的にDX化及びIT化に取り組んできた神戸物産ですが、セキュリティについては、これまではベンダーの提案に任せていたといえます。

足立様 「実は、数年前からセキュリティ関連の予算を増加し、ゼロトラスト対応を進めているところです。ゼロトラスト対策の一つとして、社員のWindowsのユーザーアカウントに対する多要素認証の導入を検討し始めたのは2020年頃でした」

体験版で動作を確認し、「UserLock」の導入を決定

多要素認証の導入以前も、セキュリティ強化には取り組まれていましたが、「バランスが悪かった」と足立様は打ち明けます。

足立様 「手始めにパスワードの強化として、自動生成した12桁のパスワードを使用するようにしました。しかし、結果は“付箋”を使う人が増加しただけでした。そもそもIDとパスワードによるセキュリティだけでは、悪意ある行為だけでなく、ユーザー自身のうっかりなどもリスクになります。そこで自社の環境や運用に合った多要素認証が必要だと感じました」

神戸物産では、2018年から端末のシンクライアント化を進めており、同年にオーシャンブリッジが販売するリモートアクセスツール「ISL Online」を導入いただいた経緯がありました。今回の『多要素認証』はもとより、その他の要件だった『オンプレファースト』『Active Directory連携』にも対応するログイン管理ツール「UserLock」をすぐにご紹介することができました。

お話を伺った人



株式会社神戸物産
システム部システム開発
課長 足立 様

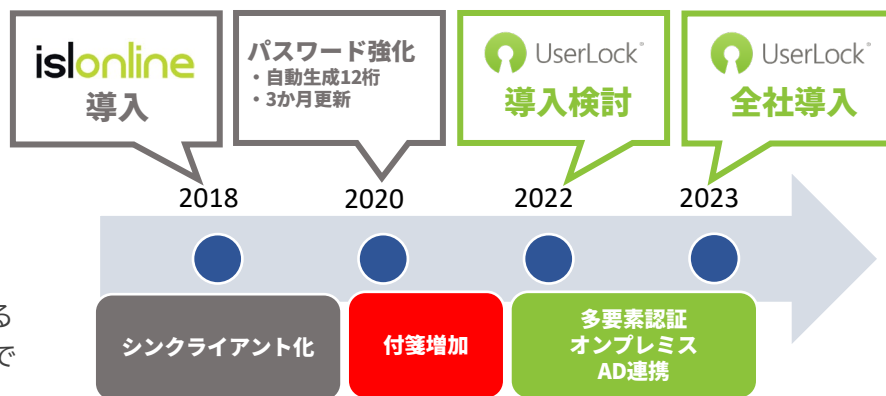


足立様は他のツールも検討されましたが、どれも要件に合わせるためのカスタマイズや、API開発などの「ひと手間」が必要で、そのまま導入できそうなのは「UserLock」だけだったと振り返ります。無償のトライアル版での試用期間を経て、「UserLock」の本格導入が始まったのは2023年でした。

「UserLock」の全社展開にあたっては、シンクライアント端末へのログインにTOTP(時間ベースのワンタイムパスワード)を使った多要素認証を使用していましたが、導入途中で実装された新機能の「プッシュ通知」を紹介されたことで、効率的な全社展開が可能になりました。

足立様「さまざまなソリューションの組み合わせで既存システムは構成されていますが、オーシャンブリッジは要件にベストマッチのソリューションを提案してくれるので、大変ありがたかったです。

また、技術的な質問についても、開発元に丸投げするのではなく、オーシャンブリッジとして評価したうえで回答してくれるので、その点も信頼できます」



神戸物産のゼロトラストに向けたセキュリティ強化(多要素認証など)のタイムライン

ユーザーと管理者の負担が小さい多要素認証をUserLockで実現

神戸物産の「UserLock」を利用した多要素認証にはスマートフォンが必要になります。しかし、数年前からスマートフォンが業務に必須のツールとなっている神戸物産でも、スマートフォンを自宅に置いたまま出社する社員が一定数はおられるといいます。

足立様「スマートフォンがないと仕事ができないという意識は相当定着したと思っていますが、“うっかり”を無くすことは難しいのが実情です。その際はシステム側で対応する必要がありますが、UserLockは期限付きの多要素認証スキップ機能が搭載されており、簡単に対応できます。このように運用管理の面を考えた設計のおかげで負担を軽減できます」

限られた情報システム部門の人的リソースに過度の負担をかけず、かつ、ユーザーの負担も抑えながらセキュリティ強化を実現できる「UserLock」はバランスの良いツールだと足立様は高く評価しています。

セキュリティを維持できる「仕組み」づくりを目指す

セキュリティ対策には終わりが無いといわれますが、今後のセキュリティ対策について足立様は次のような展望を示します。

足立様「日々、新しい脅威が生まれる中、それに合わせたセキュリティの強化は必要です。しかし、そのためにユーザーの利便性が低下するのでは、逆にリスクの増大を招く恐れもあります。セキュリティと利便性のバランスが大切だと思っています」

また、足立様はオーシャンブリッジに対して、次のような期待を見せました。

足立様「システム構築には、さまざまなツールやソリューションを組み合わせる必要があります。オーシャンブリッジには、当社の要求にベストマッチするような、日本ではまだ導入されていない有用なソリューションを提案してくれることを期待しています」

オーシャンブリッジは、「使えるITを、世界から」というスローガンのもと、これからも神戸物産を支えていきます。

※取材日時：2024年7月(文中の組織・数値に関する表記は全て取材日時時点のものです)



つかえるITを、世界から。

株式会社オーシャンブリッジ

〒107-0051 東京都港区元赤坂1-5-12 住友不動産元赤坂ビル7F

□ <https://www.isdecisions.jp>

✉ userlock@oceanbridge.jp